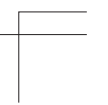
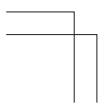


# data file



GLOBAL HOUSE



## グローバル・ハウスへ、ようこそ。

グローバル・ハウスは、愛・地球博のテーマ館であり、「自然の叡智」とは何かを紐解くパビリオンです。マンモスをはじめ、世界各地から集められた貴重な展示品や、先端技術を駆使した映像体験をご用意しています。人類に現在の繁栄をもたらすことになった重要な要素のひとつである「人類の想像力」に焦点を当てた実験的な試みもご紹介します。「自然の叡智」という壮大なテーマのもと、これだけ広範に渡る内容を網羅していることは、当グローバル・ハウスの誇るべき特色であると自負しております。

これまで、多方面に渡る方々からのご支援、ご協力をいただきながら、無事、開館の日を迎えることができました。9月25日の閉幕まで、一人でも多くの方が地球と人類の過去、現在、未来に思いをめぐらす、素晴らしい時間を過ごしていただけるよう、スタッフ一同、心から皆さまをお待ちいたしております。

グローバル・ハウス

館長 福川 伸次

## グローバル・ハウスの概要

～地球と人類の過去、現在、未来から「自然の叡智」を紐解く～

グローバル・ハウスには、過去、現在、そして未来における「自然の叡智」と人類の関わり方という壮大なテーマのもとに、数多くの貴重な展示品が世界中から集められ、最新の映像技術を駆使したシアターが備えられています。また、人類に現在の繁栄をもたらすことになった重要な要素のひとつである「人類の想像力」に焦点を当て、想像力とはどのようなものなのか、聴覚や視覚、触覚といった自分の生の感覚を通して体感していただくという実験的な試みもおこなわれます。

## グローバル・ハウス シンボルマーク

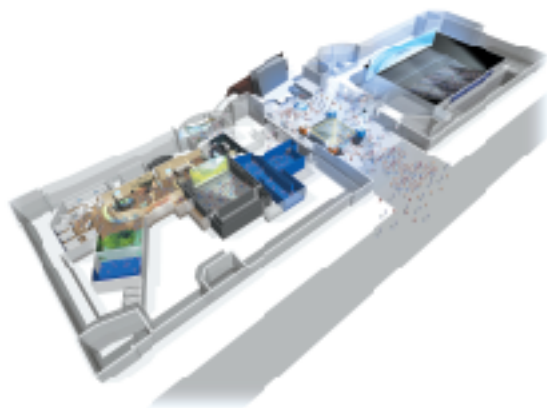
### 【シンボルマーク デザインコンセプト】

「自然の叡智」の結晶である地球の姿を表すブルーの球体

ブルーの球体は、「自然の叡智」の結晶である地球の姿そのものであり、その調和の取れた美しさを先進感や未来感を意識したグラデーションの中に表現しています。これは、未来においても美しい調和を失わない地球の姿を象徴するものです。この球体を、グローバル〔GLOBAL〕の頭文字Gの型にくりぬきました。

想像力、生命の力を象徴するオレンジの球体

くりぬいた青い球体の中心にあるオレンジ色の球体は、外に向かう「力」を意味します。人間が手にした「想像力」、広がり続ける未来と宇宙、生命の力強さ、これからも歩みを止めることのないこの星の営みを象徴しています。



GLOBAL HOUSE

### <デザイナープロフィール>

グローバル・ハウスのロゴデザイン、ユニフォームデザインは共に、ポスター、広告などグラフィックの分野で、その若い感性と展開力によって高い評価を得ている若手デザイナー、隈部浩氏がデザインを担当しました。

隈部浩 (クマベヒロシ):アート ディレクター

1975年、東京生まれ。1999年日本大学芸術学部卒業後、電通テックに勤務。

## 各館の特徴

### —オレンジ ホール— orange hall

超高精細映像システムを備えた、スーパーハイビジョン シアターのほか、「自然の叡智」と「人類の想像力」の関わりを解き明かそうとする最先端プロジェクトの研究を紹介し、世界中から集められた貴重な資料を展示します。

### —ブルー ホール— blue hall

最新技術を用いたレーザー・プロジェクション・システムによる新たな映像体験。幅約50m、高さ約10mの2005インチ・シームレススクリーンという世界最大規模、迫力の大画面と、レーザービームを用いた高精細、高解像度による鮮やかな映像で、現在の地球と人類の有様を、さまざまなデータを通して浮き彫りにします。

### —マンモス ラボ— MAMMOTH lab

シベリアの永久凍土より発掘された、約1万8千年前のものと推測されるユカギルマンモス。マンモスは環境の変化に対応して進化をとげた一方、環境の激変には対応できずに絶滅したとも考えられています。この冷凍状態のマンモス標本と、そのサンプルをもとに進められている、マンモス絶滅の謎を解明しようとする最先端の研究をご紹介します。

### 施設の再利用について

愛・地球博は、環境保全や、未来の資源循環型社会を描くという観点から、これまで愛知県民の皆様が親しまれ、愛されてきた愛知県立青少年公園を会場として利用しています。グローバル・ハウスのブルー ホール、オレンジ ホールも公園内にあったアイススケート場と温水プールを展示スペースとして利用しています。

### 入館方法

グローバル・ハウスには、「オレンジ ホール～マンモス ラボ」、「ブルー ホール～マンモス ラボ」の、2つの観覧コースが用意されています。入館にあたっては、それぞれのコースについて「事前観覧予約」「当日入館整理券」のいずれかを取得する必要があり、安全確保の観点から開幕当初から当分の間は、午前中からの観覧をご希望の場合、「事前観覧予約」の取得が必要となります。「事前観覧予約」をご利用になる場合は、ご来場いただく前々日(24時)までに愛・地球博公式ウェブサイトで行ってください。

「事前観覧予約」をご利用にならない場合でも「当日入館整理券」でご入館いただけます。入館整理券は、グローバル・ハウス入口付近で午前中から数回に分けて配布し、その後、券面に記載された時間での入館となります。入館整理券は、オレンジ ホールとブルー ホールそれぞれに発行します。

## グローバル ナビゲータ

### 人類の想像力

およそ700万年前に誕生したと言われる人類は、その後、様々な形で想像力を発揮しながら文明を  
発展させ、豊かな文化を育んできました。その一方で、人類の想像力によって生み出されたものが、時に  
地球や他の生命を脅やかし、破壊しているのもまた事実です。地球に暮らしているのは、人類だけ  
ではないということを忘れてはなりません。アインシュタインは「Imagination is more important  
than knowledge. Knowledge is limited. Imagination encircles the world.」と語っています。  
今後、私たち人類は、地球全体を視野に入れて想像力を駆使していくべきでしょう。例えそれがこれまでの  
豊かさとは異なるものであっても、長い目で見れば、私たちは地球を守り、共存していく道に一步を踏み  
出さなければならないのです。

荒俣 宏



#### <荒俣宏氏プロフィール>

1947年、東京生まれ。慶応大学法学部卒業。

翻訳、小説、博物学、神秘学などジャンルを超えた執筆活動で、博物学  
ルネサンスの日本における中心人物となる。

### 外から見た地球

私は、地質学者として、これまで地球の起源や進化について研究してきました。33年前、アポロ計画最後の宇宙  
飛行士として月に降り立った私は、そこから眺めた地球の美しさに、言葉にしがたいほどの感動を抱いたのです。  
アポロ計画で重要だったのは、サンプルとして初めて地球外の物質である「月の石」を持ち帰ることでした。  
しかし、アポロでの一番の成果は、私たち人類が地球という素晴らしい惑星を、その外から見たという事実では  
ないでしょうか。地球を外側から見ることによって、その美しさ、素晴らしさを感じ取り、かけがえのないこの星を  
大切にしようと、真剣に考えるようになったことだと思います。私たちは宇宙に出ることによって初めて地球の  
大きさと物事を考える姿勢、地球的視点を手に入れたのです。

ハリソン・ハーガン・シュミット



The Honorable Dr. Harrison  
H. Schmitt

#### <ハリソン・ハーガン・シュミット(ジャック・シュミット)氏プロフィール>

1935年7月3日、アメリカ ニューメキシコ州サンタリタ生まれ。

ハーバード大学にて博士号(地質学)取得。

1972年12月、アポロ17号でアポロ計画最後の月面着陸を行った。アポロ  
計画で月に行った12人の宇宙飛行士のなかで唯一の科学者である。

現在は、科学・技術・公共政策の独立コンサルタントのかたわら、月のヘリウム3  
を使った新エネルギー開発に情熱を注いでいる。

## ユカギルマンモス

2002年、ロシア連邦、北シベリアのサハ共和国北部で発見されたマンモスは、頭部や左前肢に、皮膚や筋肉、脳などが、良好な保存状態で残っていた。発見された場所にちなんで、ユカギルマンモスと名付けられたこの標本の研究によって、さまざまなことが明らかになってきている。

牙の長さは3.2メートル、肩までの高さは2.8メートル、全長は5メートル近くにもなる。今からおよそ1万8千年前のこのユカギルマンモスは、どのような歩き方をしていたのか？ どんなものを食べていたのか？ これからの研究が、それらを明らかにしていけるだろう。

マンモスの仲間は、今からおよそ400万年前、アフリカに登場した。氷河期のシンボルともいえるケナガマンモスは、25万年前から1万年前にかけて、ヨーロッパ、シベリアから北米にかけて生息し、体の高さ2.8～3.4メートル、体重4～6トンと、今のアジアゾウとアフリカゾウのちょうど中間くらいの大きさだった。背中は後ろに向かって傾斜し、長く、ねじれた牙を持つのが特徴である。また、寒さに耐えるために、全身が長い体毛で覆われており、外側の毛は、長さ90センチ、太さは人間の髪の毛の6倍にもなる。非常に小さな耳や短い尾、尻の蓋も寒さへの適応と考えられている。

マンモスと同じゾウの仲間でも現在も生存しているのは、アフリカゾウとアジアゾウのみ。大部分のマンモスは、今からおよそ1万年前には絶滅したが、北極圏の島には、およそ4千年前まで、生き残ったものもいたと考えられている。マンモスが絶滅した理由としては、マンモスの絶滅と同じ頃、北米から南米に生息していた大型哺乳類が絶滅していることから、人類が移動しながら狩りをして絶滅させたとも考えられていた。しかし、マンモスが激滅したと考えられている頃、数十年の間に気温が6度近くも上昇する、急激な温暖化があったことなどが明らかになったことで、現在では、環境の変化によって植生が変化し、マンモスを絶滅に追いやったとする考え方が、有力になっている。



## スーパーハイビジョン シアター

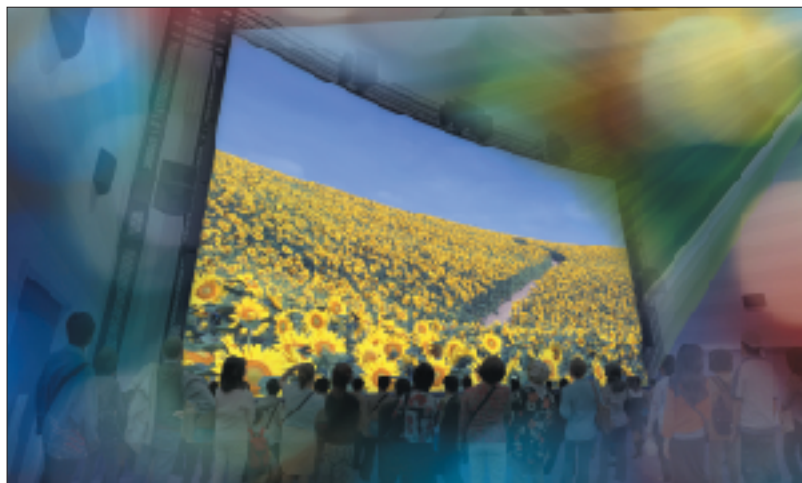
地球と地球に生きる生命の姿を、グラフィア写真にほぼ匹敵する超高精細映像システム、スーパーハイビジョンによる600インチ大画面の臨場感溢れる映像と22.2チャンネルの立体音響でお送りします。会期の前半と後半で異なる映像を提供します。

### 「地球・いのちを育む惑星」

スーパーハイビジョンの技術的特性を最も活かす被写体が「群れ」です。広視野の大型スクリーン一杯に広がる「群れ」は、圧倒的なボリューム感で見る者に迫り、超高精細の映像は群れを構成する「個」の動きや表情を鮮明に映し出します。立体音響が五感に訴える群れの息遣いや、鳥の群れ、魚の群れ、植物の群れ、そして人間の群れといった、スーパーハイビジョンが実現するこれまでにない映像世界が、生命の躍動感や自然界のハーモニーを見る者に体感させてくれるはずです。

### 「大地の色」

スーパーハイビジョンは、色彩を鮮やかに再現することにおいて放送技術を革新的に進化させたデジタル・ハイビジョンの延長線上にあるものです。初夏の大樹の匂いたつ緑、豊に実る稲穂の黄、優雅に舞うタンチョウの白。太陽の光が大地で織りなす様々な色を、日本の季節の変化にかさねながら映像化し、地球讃歌をうたいあげます。スーパーハイビジョンが映し出す多彩な色は、自然界の多様性と、多様性ゆえの美を、見る者に深く印象づけることでしょう。



## レーザー ドリームシアター

新開発技術を用いたレーザー・プロジェクション・システムにより、幅約50メートル、高さ約10メートルの2005インチ・シームレススクリーンによる新たな映像体験をお届けします。

この画期的なレーザービームを用いたシアターは、11.1チャンネルの迫力あるサラウンド環境の中で、従来の映像デバイスでは難しい色鮮やか色彩表現を可能にしています。また約600万画素（総画素数：水平1920画素×垂直1080画素×3システム）を超える高精細・高解像度に加え、平均2500:1以上の高コントラスト比によって、鮮明かつ迫力ある映像を体験することが出来ます。超ワイド大画面上で繰り上げられる臨場感ある映像をお楽しみ下さい。

上映コンテンツ：「2005 our planet」

約700万年前に地球上に誕生した人類は、加速度的な増殖をつづけ現代に至っています。われわれは、これからどのような未来を生きるのでしょうか？それを知るには、まず21世紀初頭の、今という時点における人類の状況を冷静に知る必要があるでしょう。そこで、当レーザー ドリームシアターでは、現在の地球と人類の有様を、さまざまなデータを通じて浮き彫りにします。言わば、「21世紀初頭の人類全体の身体および生活測定」を映像としてご覧いただきます。



上映される映像のサンプル1



上映される映像のサンプル2



## グローバル ショーケース

人類の想像力をテーマに、人類と環境の歴史を探る最先端の研究成果を6つのゾーンで紹介し、世界各地から寄せられる人類の財産ともいえる貴重な展示品が並びます。また、想像力とは一体どのようなものなのか、聴覚や視覚、触覚といった自分の生の感覚を通して体感していただくという実験的な試みもおこなわれます。

### 各ゾーンの展示テーマ

#### ■「ヒトが生まれた日」

さまざまな環境の変化によってそれまでの住み処からの旅立ちを余儀なくされた人類。彼らにとって自然は不思議に満ち、不安と驚きの連続だったはずです。私たちの祖先はその不安や驚きを、想像力を発達させることで乗り越えてきました。

<展示品>トゥーマイ発掘頭骨／トゥーマイ復元頭骨／トゥーマイ上半身復元モデル／ルーシー（320万年前のアファール猿人）／世界最古の芸術（7万5千年以上前の最古の格子模様）／世界最古のアクセサリー（7万5千年以上前の最古の貝殻ビーズ）

#### ■「マンモスが倒れた日」

マンモスは、なぜ絶滅したのでしょうか？環境の急激な変化に対応できなかったのか、それともエネルギーと道具を利用することで環境に自在に順応し、急激に勢力を拡大した人類との生存競争に敗れたのでしょうか。

<展示品>ユカギルマンモス全身復元像／触れる牙／臼歯

#### ■「都市を築いた日」

人類はより安定した生活を求めて、さまざまに環境を作り変えてきました。狩猟の段階を経て農耕を始めた人類は、土地に定着し、住居を改良し、村落を築き、さらに都市へとその生活環境を整えていきました。

<展示品>女性像／ディオニュソス像／柱頭／ソンマ・ベスピアーナ遺跡復元／電脳屏風スクリーン／刻字ト骨（甲骨文字）／禹鼎／青花松竹梅文鼎形香炉／秘色青磁八稜瓶／青磁三足尊／白磁長頸瓶／伎楽紋八稜金杯／団花紋金杯／和同開珎／壁画「ポロ図」